

国内石油天然ガスに係る地質調査・メタンハイドレートの研究開発等事業費

令和3年度予算額 260.7億円（258.0億円）

(1) 資源エネルギー庁 資源・燃料部
石油・天然ガス課
03-3501-1817
(2) 資源エネルギー庁 資源・燃料部
政策課
03-3501-2773

事業の内容

事業目的・概要

- 日本周辺海域に一定の資源量が期待される在来・非在来型の石油・天然ガスを安定的なエネルギー資源として利用可能とするため、「エネルギー基本計画」（平成30年7月閣議決定）等に基づき、資源量調査や技術開発等を実施します。

(1) 国内石油天然ガス基礎物理探査

JOGMECが保有する三次元物理探査船「たんさ」を用いて、日本周辺海域の未探鉱地域等における石油・天然ガスのポテンシャルを把握するための調査を行います。

(2) 国内石油天然ガス試錐支援

(1)の結果等を踏まえ、民間企業が実施する試錐（掘削調査）に対して、経費の一部を補助します。

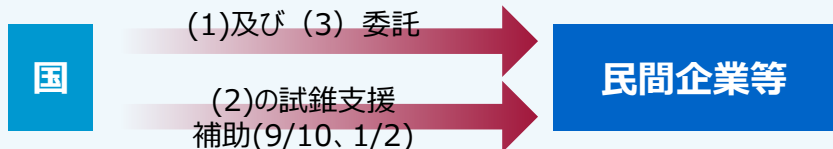
(3) メタンハイドレートの研究開発

日本周辺海域に相当量の賦存が期待されるメタンハイドレートについて、我が国のエネルギー安定供給に資する重要なエネルギー資源として、将来の商業生産を可能とするための技術開発を行います。

成果目標

- 三次元物理探査を年間約5千km²、令和10年度までに概ね5万km²実施します。また、試錐支援を機動的に実施します。
- メタンハイドレートについては、民間企業が主導する商業化に向けたプロジェクトが令和5～9年度の間を開始されることを目指します。

条件（対象者、対象行為、補助率等）



事業イメージ

(1) 国内石油天然ガス基礎物理探査



三次元物理探査は、地下の地質構造が立体的に把握できる高精度な探査手法。海中で人工的に音波を発生させ、地層境界面で返ってきた反射波を探査船から曳航したケーブルに内蔵した受信器でとらえて、地下の地質構造を調査。

(2) 国内石油天然ガス試錐支援



基礎物理探査等の結果をもとに、民間企業が石油・天然ガスの存在や地質・地質構造を具体的に確認するために実施する掘削調査について、経費の一部を補助。

(3) メタンハイドレートの研究開発



①砂層型メタンハイドレート
令和3年度は、長期生産技術の確立に必要な長期陸上産出試験等を実施。

②表層型メタンハイドレート
令和3年度は、生産技術の確立に向け、要素技術及び共通基盤技術の開発や必要な海洋調査等を実施。